

# イベントレポート

## 第7回IPA 圧入工学セミナー in 高知 2014

イベントレポート

更新日 2014.8.6



開催日時： 2014年7月24日(木)10:30-17:30

場所： 高知県高知市

会場： [高知新聞放送会館 高知RKCホール](#)

主催： 国際圧入学会(IPA)研究委員会

後援： [高知県](#)、[高知市](#)、[全国圧入協会](#)、[一般社団法人高知県工業会](#)、[一般社団法人高知県発明協会](#)  
[一般社団法人高知県技術者協会](#)、[高知工科大学](#)、[高知工業高等専門学校](#)  
[株式会社四国銀行](#)、[株式会社高知銀行](#)、[株式会社高知新聞社](#)、[株式会社技研製作所](#)

プログラム： 講演1「高知県の南海トラフ地震対策について」  
高知県知事 尾崎 正直氏

講演2「津波に対する粘り強い構造化に向けて 一東日本大震災から学んだ教訓」  
京都大学 名誉教授 一般財団法人沿岸技術研究センター 参与 高山 知司氏

講演3「地下空間利用による防災対策と海外事例」  
都市地下空間活用研究会 主任研究員 粕谷 太郎氏

講演4「インプラント工法による防災対策」  
株式会社技研製作所 工法事業部 工法推進課 リーダー 梶野 浩司氏

講演5「圧入技術に関する研究開発の最新情報」  
ケンブリッジ大学 講師 スチュワート・ヘイグ氏  
株式会社技研製作所 新工法開発部 実証科学課 リーダー 石原 行博氏

司会進行 IPA事務局長 奥村 忠彦

参加者数： 488名

7月24日(木)、第7回IPA圧入工学セミナーを高知県高知市の[高知新聞放送会館高知RKCホール](#)にて開催しました。セミナーには、9つの国と地域から研究者や技術者が参集したほか、国土交通省や高知県、高知市などの行政関係者、一般の県民、市民を含め過去最大数となる488名の聴講者が参加されました。

セミナーでは、マルコム・ボルトン会長、北村精男名誉会長による挨拶に続き、講師6名による5題の講演が行われました。



IPA会長 マルコム・ボルトン氏



IPA名誉会長 北村 精男氏



IPA事務局長 奥村 忠彦氏(司会進行)

最初に南海トラフ地震による超広域災害への備えを積極的に進める「9県知事会議」の中で強力なリーダーシップを発揮している尾崎高知県知事より、県民・市民が直面するであろう被害想定が示されました。その後、現在取り組み中の浦戸湾・高知海岸での堤防の耐震・液状化対策や津波避難シェルター・津波避難タワーの整備、保育園の高台移転といった津波避難対策の事例、総合防災拠点の設置や災害医療救護体制の整備などが紹介されました。

(英語抄訳: IPA 石井 一嘉監事)



尾崎 正直知事(高知県)

次に、京都大学名誉教授で一般財団法人沿岸技術研究センター参与の高山知司氏から、沿岸における津波の挙動について解説があった後、東日本大震災で甚大な被害を被った岩手県釜石湾の津波防波堤や青森県八戸港の防潮堤の被災状況が紹介され、今後は最大クラスの津波が襲来しても倒壊することのない粘り強い防御構造物の設置がいかに必要であるかが指摘されました。

(本人英語抄訳)



高山 知司氏  
(京都大学名誉教授  
一般財団法人沿岸技術研究センター)

続く都市地下空間活用研究会の粕谷主任研究員からは、上海や東京など国内外の土地が狭く、人口の多い大都市部における地下空間活用の有効性が多くの事例とともに紹介されました。さらに、東日本大震災の際にも、地下空間が一時避難のために活用された事例などから、災害発生時にも地下空間が高い有用性を持つことが示されました。

(英語抄訳: 株式会社技研製作所 小川 豊和氏)



粕谷 太郎氏  
(都市地下空間活用研究会)

技研製作所の梶野氏からは、建設の五大原則を満たし、最適な防災技術である圧入工法を用いて地球と一体化する粘り強い構造物を構築するインプラント工法について解説がありました。多くの聴講者にとって身近な新居海岸(高知県土佐市)の堤防改良工事や東日本大震災の被害が大きかった大平地区(岩手県釜石市)での防潮堤構築計画など様々な適応例が発表され、さらにコンビジャイロ工法やインプラントロック工法といった最新技術や海外案件への提案工法も紹介されました。

(英語抄訳: 株式会社技研製作所 八重樫 永規氏)



梶野 浩司氏  
(株式会社技研製作所)

最後に、ケンブリッジ大学のヘイグ氏と技研製作所の石原氏によって、今年で21年目を迎える産学共同研究の歴史とこれまで積み重ねてきた成果、圧入杭の特長や鋼矢板連続壁の性能といった研究事項が紹介されました。また、最新の研究成果である「既設ガス管への圧入施工の影響の可視化」についても報告されました。



スチュワート・ヘイグ氏  
(ケンブリッジ大学)



石原 行博氏  
(株式会社技研製作所)

閉会後は、会場をレストラン「ラ・ヴィータ」に移し、研究者、行政関係者、企業関係者ら産学官での交流会を開催、海外からの招待者である研究者や学者、学生が自己紹介や情報交換をする姿が会場のあちらこちらで見受けられました。

また、翌25日(金)には、国内外の若手研究者の育成を目的とした「第3回IPA若手研究者ワークショップ」と、研究成果を世界各国での実務に活用することを目的に研究者と技術者が意見交換を行う「第2回IPA海外研究セミナー」も開催しました。こちらはプレゼンテーションやセッションに加え、前日の尾崎高知県知事の講演で紹介いただいた高知海岸で見学会を実施し、最前線の防災対策の現場を視察することのできた参加者より好評を博しました。

